



2021 年 12 月 2 日

森と海の自然科活動報告

テーマ「森」

【鎮守の森・岩清水八幡宮と三川合流地を散策する】

1. 日時 2021 年 12 月 2 日（木）晴れ
2. 集合 10 時 30 分 京阪電車 橋本駅 改札前
3. 参加者 20 人
4. 行程 京阪橋本駅⇒駅前の道標見学⇒旧遊郭街⇒町外れの渡し場道標見学⇒石清水八幡宮

駅⇒岩清水八幡宮参道ケーブルで山頂⇒男山展望台（昼食・三川 合流の様子見学 目の前は天王山の山並み、目を北に向けると京都市街、真下は桜の名所・背割りの堤が見えます）昼食後、岩清水八幡宮参拝・見学。裏参道・表参道を歩いて下山。

石清水八幡宮・三川合流地河川敷は本科生・アシスタント時代、昆虫採取実習を。研修センターで昆虫の同定作業・会議等で利用しました。森と海の自然科も利用しています。

京都府八幡市八幡高坊にある神社で、旧称は「男山八幡宮」。二十二社（上七社）の 1 つで、伊勢神宮（三重県伊勢市）とともに二所宗廟の 1 つ。旧社格は官幣大社で、現在は神社本庁の別表神社。

石清水八幡宮は、859 年に空海の弟子である南都大安寺の僧行教が大分市の宇佐神宮にて神託を受けたことにより、翌年に清和天皇が創建しました。都から見るとちょうど裏鬼門(南西)に当たる場所に鎮座し、王都を守護する神として朝廷からは厚く崇敬されています。清和源氏の流れをくむ武家からは氏神として崇敬され、鶴岡八幡宮など全国に勧請されて武運・勝運の神としての性格を強めました。

*岩清水井・岩清水社・・・冬に凍らず夏に枯れない霊泉。〔岩清水〕が湧き出る当宮の名の由来となった場所。創建以前の起源にさかのぼる。

*細橋（ささやきばし）・・・岩清水井戸の源流が通るために渡らずとなっている橋

*松花堂跡・・・松花堂弁当の名の由来となった当宮の社僧・松花堂昭乗の晩年の住居・草庵跡地

*エジソン記念碑：エジソンは白熱電球の研究に力を入れ、商品として改良を繰り返しました。そのため、白熱電球はエジソンが発明したというイメージを持つ人が一定数いるようです。しかし、実際に白熱電球を発明したのはイングランドの物理学者ジョゼフ・スワンという人物でした。エジソンは白熱電球の技術特許を取得していますが、発明者ではなかった。

*石清水八幡宮にエジソン記念碑訪問の記 戻る 2003 年 11 月 19 日と 20 日、委員会が大阪地区で開催された。委員会としての活動が終了後の帰路の時間を利用して、20 日の午後、京都 …

*エジソンは京都の「竹」を使うことで白熱電球の実用化に成功しており、電灯事業で大成功を収めています。また、同じ技術を使って電気トースターや電気アイロンも発明しています。エジソンのこれらの発明がなければ私たちの生活は今とは全く違うものになっていたかも知れない。

*松花堂（しょうかどう）は、江戸時代初期の僧侶（石清水八幡宮の社僧）で文化人であった松花堂昭乗がその晩年の寛永 14 年（1637 年）に構えた草庵の名称である。現在の京都府八幡市、石清水八幡宮のある男山の東麓に泉坊という宿坊があり、その中にこの草庵があった。



展望台から三川合流を望む



信長壁



五輪塔(高さ6メートルの石造り塔)



石清水八幡宮本殿前にて



安居橋前にて